

健康診断を基にした土壌病管理技術(HeSODiM)の開発

(独)農業環境技術研究所、(独)農研機構 近畿中国四国農業研究センター、兵庫県農林水産技術総合センター、高知県農業技術センター、長野県野菜花き試験場、富山県農林水産総合技術センター、香川県農業試験場、三重県農業研究所

本課題では、日本の主要土壌を対象に、栽培条件、土壌理化学性及び『土壌DNA情報』を取り入れた『革新的土壌病診断及び管理技術』の開発を目指しています。ここでは開発中の土壌病管理技術『ヘソディム』を紹介します。

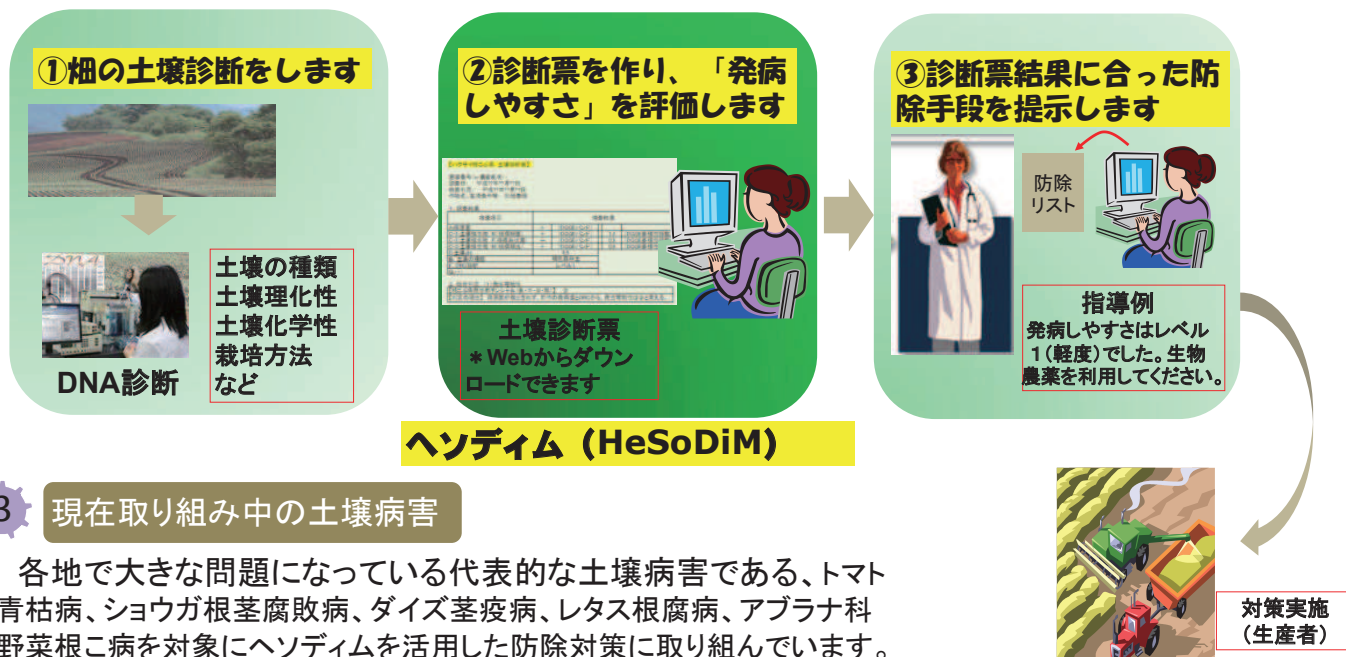
1 『健康診断を基にした土壌病管理技術(ヘソディム: HeSODiM)』を目指した背景

- ・土壌病害の多くは発生予測が難しく、従来防除暦に基づく防除(一斉防除)が勧められてきました。
- ・一方、温暖化等に配慮した農薬の施用量を軽減する技術の開発が求められ、総合的病害管理技術(IPM)はそのための有力な手段と考えられています。しかし、IPMは、前述のように、土壌病害の発生予測の難しさから利用は進んでいません。
- ・このため、本課題では、国内の経済的に重要な病害を対象に、農薬の50%削減を目標に、『発生予測に頼らない』、新しい土壌病管理技術(ヘソディムと称す)の開発を目指すことにしました。

2 『健康診断を基にした土壌病管理技術(ヘソディム: HeSODiM)』とは？

ヘソディムは健康診断に基づく土壌病管理技術の略称です。ヒトの健康診断では、通常、血液検査結果等をもとに、医師が診断項目の基準値を基に、投薬、健康管理方法等を指導しています。これらの検査では、「いつ」病気が発生するかは必ずしもわかりません。

本システムは、これと同様に、「土壌等の診断票」を作成し、畑の「発病しやすさ(発病ポテンシャル)」を評価することにより、発病ポテンシャルに応じた対策を指導するものです。



3 現在取り組み中の土壌病害

各地で大きな問題になっている代表的な土壌病害である、トマト青枯病、ショウガ根茎腐敗病、ダイズ茎疫病、レタス根腐病、アブラナ科野菜根こ病を対象にヘソディムを活用した防除対策に取り組んでいます。

* HeSODiM: Health-checkup based soil-borne disease management

問い合わせ先: (独)農業環境技術研究所 對馬誠也 seya@affrc.go.jp